

1.	②	11.	③	21.	④	31.	②	41.	③
2.	②	12.	③	22.	④	32.	④	42.	④
3.	①	13.	①	23.	②	33.	③	43.	③
4.	②	14.	③	24.	③	34.	③	44.	③
5.	③	15.	④	25.	③	35.	③	45.	③
6.	④	16.	④	26.	③	36.	②	46.	③
7.	②	17.	①	27.	①	37.	④	47.	②
8.	②	18.	①	28.	①	38.	①	48.	②
9.	③	19.	④	29.	②	39.	③	49.	④
10.	③	20.	①	30.	③	40.	②	50.	②

1.

解答 ②

【解説】

正解は②の`land`で、名詞として海と対比した「陸、陸地」や「土地」、動詞として「(飛行機などが)着陸する」という二つの主な意味があります。名詞の例: `The island has fertile land suitable for farming.` (その島には農業に適した肥沃な土地がある)。動詞の例: `The plane is expected to land on time.` (その飛行機は定刻に着陸する見込みだ)。他の選択肢は、①`hand`が「手」、③`sand`が「砂」、④`lend`が「～を貸す」という意味です。

◆補足：動詞`land`の対義語は`take off`（離陸する）です。名詞`landing`は「着陸」を意味します。`a rough landing`（荒い着陸）。

2.

解答 ②

【解説】

「well-known」は、「よく知られている、有名な」という意味の形容詞です。`well`（よく）と`known`（知られている、knowの過去分詞形）が組み合わさってできています。人、場所、物事など、様々な対象に使えます。したがって、正解は②「よく知られている」です。①「知識が豊富な」はknowledgeable、③「上手く作られた」はwell-madeとなり、形は似ていますが意味は異なります。④「健康によい」はgood for healthなどで表します。

◆補足：`well-known`は`famous`と意味が似ていますが、`famous`の方がより有名度が高い、スター性のあるニュアンスで使われることが多いです。`be well-known for ...`で「…でよく知られている」、`be well-known to ...`で「…によく知られている」という形で使われます。例文: `This temple is well-known for its beautiful garden.` (この寺は美しい庭でよく知られている)。

3.

解答 ①

【解説】

「resource」は、国や人の活動の助けとなる「資源」や「資金」「資質」などを意味する名詞です。特に、石油や石炭、森林などの天然資源を指して使われることが多いです。したがって、正解は①「資源」です。②「結果」は result、③「研究」は research、④「応答」は response という単語がそれぞれ対応します。

◆補足：`natural resources` で「天然資源」、`human resources` で「人的資源（人材）」というように、他の単語と組み合わせてよく使われます。複数形の `resources` で使われることが一般的です。例文: `Water is one of our most important natural resources.`（水は私たちの最も重要な天然資源の一つです）。

4.

解答 ②

【解説】

英単語「message」の最も基本的な意味は、人から人へと伝えられる言葉や情報、つまり「伝言」や「メッセージ」です。手紙や電話、メールなどで伝えられる内容全般を指します。よって、正解は②「伝言」です。不正解の選択肢は、①「荷物」が package や luggage、③「機械」が machine、④「雑誌」が magazine であり、いずれも message とは意味が異なります。スペルが似ている単語に惑わされないように注意しましょう。

◆補足：動詞として「～にメッセージを送る」という意味で使われることもあります。例: `I'll message you later.`（後でメッセージを送るね）。また、`leave a message`（伝言を残す）や `take a message`（伝言を受け取る）は電話応対などでよく使われる定番の表現です。

5.

解答 ③

【解説】

正解は③の wheat で、パンや麺類の原料となる「小麦」を意味します。①の weight は「重さ、体重」、②の weather は「天気」、④の wealth は「富、財産」という意味です。これらは音が似ているものもあるので、スペルと意味を正確に覚えて区別しましょう。

◆補足：`wheat` は通常、不可算名詞として扱われます。`a field of wheat` で「小麦畑」となります。パンやパスタのパッケージに `whole wheat` と書かれていることがありますが、これは「全粒小麦」を意味します。

6.

解答 ④

【解説】

正解は④「静かに、黙って」です。`silently`は副詞で、「音を立てずに、黙って」という意味です。

`She walked silently into the room.`（彼女は静かに部屋に入ってきた）。①「わずかに」は`slightly`、②「馬鹿げた」は形容詞の`silly`、③「似たように」は`similarly`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`silently`は、形容詞`silent`（静かな、無口な）に`-ly`を付けて作られた副詞です。`keep silent`で「黙っている」。名詞形は`silence`（静けさ、沈黙）です。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②の **terrible** で、「ひどい」「恐ろしい」といった非常にネガティブな状況を表す形容詞です。事故、天気、味、気分など、様々なものに対して使えます。この問題のポイントは、①の **terrific** との区別です。**terrible** と **terrific** は形がとてもよく似ていますが、**terrific** は「素晴らしい」「最高の」という意味で、**terrible** とは全く逆の意味になります。この2つは混同しやすい単語の代表例なので、必ずセットで覚えてください。③の **tired** は「疲れた」、④の **tiny** は「とても小さい」という意味です。

◆補足：**terrible** と同じように「ひどい」という意味で `horrible` や `awful` もよく使われます。これらも合わせて覚えておくと表現の幅が広がります。例文: `I had a terrible headache yesterday.`（昨日、ひどい頭痛がした）。`The weather was terrible.`（天気は最悪だった）。

8.

解答 ②

【解説】

「by chance」は、「偶然に」「たまたま」という意味を表す副詞句です。意図せず何かが起こった状況を説明するのに使われます。したがって、正解は②「偶然に」です。①「交代で」は **by turns**、③「もちろん、ぜひとも」は **by all means**、④「ちなみに、ところで」は **by the way** という表現がそれぞれ対応します。`by` を使った熟語はたくさんあるので、一つずつ意味をしっかりと覚えましょう。

◆補足：`by accident` も「偶然に」という意味で `by chance` とほぼ同じように使えます。例文: `I met an old friend by chance at the station.`（駅で偶然、古い友人に会った）。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③の **enemy** で、「敵」を意味する最も一般的な単語です。戦争や競争における相手だけでなく、比喩的に「健康の敵」のように、何かを害するものに対しても使われます。①の **energy** は「エネルギー、活力」、②の **engine** は「エンジン」、④の **army** は「軍隊」という意味です。特に **energy** は **enemy** とスペルや発音が似ていると感じる学習者もいるため、注意して区別しましょう。

◆補足：`enemy` の反対語は `friend` (友達) や `ally` (味方、同盟国) です。`make an enemy of ...` で「…を敵に回す」という表現になります。例文: `He has no enemies.` (彼には敵がいらない)。

10.

解答 ③

【解説】

正解は③「筋肉」です。`muscle` は、体を動かすための組織である「筋肉」を意味する名詞です。

`Regular exercise helps to build strong muscles.` (定期的な運動は強い筋肉を作るのに役立つ)。①「博物館」は `museum`、②「音楽の」は形容詞の `musical`、④「口ひげ」は `mustache` です。

◆補足：`muscle` の `c` は発音しない黙字 (サイレントレター) です。発音は「マッスル」となります。コロケーションとしては `sore muscles` (筋肉痛) や `pull a muscle` (肉離れを起こす) などがあります。形容詞形は `muscular` (筋肉の、がっしりした) です。

11.

解答 ③

【解説】

正解は③の **simple** で、「簡単な、単純な、わかりやすい」という意味の形容詞です。複雑ではないことを表します。①の **single** は「ただ一つの、独身の」、②の **sample** は名詞で「見本」、④の **similar** は「似ている、同様の」という意味です。特に **simple** と **single**、**similar** はスペルが似ているので注意しましょう。

◆補足：`simple` の反対語は `complex` や `complicated` (いずれも「複雑な」) です。副詞形は `simply` (単に)。類義語の `easy` は、労力や困難が少ない「やさしさ」に焦点を当ててのに対し、`simple` は構造が「単純」であることに焦点を当てます。例文: `The instruction manual was written in simple English.` (その取扱説明書は簡単な英語で書かれていた)。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③の **destroy** で、「～を破壊する、滅ぼす」という意味の動詞です。建物や環境などを完全に、修復できないほどに壊すという強い意味合いを持ちます。①の **discover** は「～を発見する」、②の **develop** は「～を発展させる」、④の **describe** は「～を描写する、説明する」という意味です。

◆補足：名詞形は `destruction` (破壊) です。`destroy` の反対の概念を持つ単語は `create` (創造する) や `build` (建てる)、`construct` (建設する) などです。例文: `The earthquake destroyed many houses.` (その地震は多くの家屋を破壊した)。

13.

解答 ①

【解説】

形容詞「fair」の中心的な意味は「公平な、公正な」です。偏りがなく、誰に対しても正しいやり方であることを示します。したがって、正解は①「公平な」です。②「自由な」は **free**、③「恐れている」は **afraid**、④「確信して」は **sure** や **certain** で表します。

◆補足：`fair` には他にも「(髪や肌の色が) 金色の、色白の」や「(天気が) 晴れの」、「(数量などが) かなりの」など、多くの意味があります。文脈に応じて意味を判断する必要がありますが、まずは「公平な」という基本義をしっかり押さえましょう。名詞として「博覧会、見本市」という意味もあります。`That's not fair!` は「それは不公平だ!」という決まり文句です。

14.

解答 ③

【解説】

正解は③の **seriously** で、「真剣に」「本気で」または「深刻に」「ひどく」という意味を持つ副詞です。形容詞 `serious` (真剣な、深刻な) から派生した単語です。①の **secretly** は「秘密に、こっそりと」、②の **suddenly** は「突然に」、④の **similarly** は「同様に」という意味です。

◆補足：`take ... seriously` で「…を真剣に受け止める」という重要な表現になります。また、怪我や病気の程度が「ひどい」ことを表すのにも使われます。例文 (真剣に) : `You should think about your future seriously.` (あなたは自分の将来について真剣に考えるべきだ)。例文 (深刻に) : `He was seriously injured in the accident.` (彼はその事故で重傷を負った)。

15.

解答 ④

【解説】

正解は④の **own** です。「自分自身の」という意味の形容詞で、`my`, `your`, `his` などの所有格のすぐ後ろに置いて、「～自身の」と所有を強調する働きをします。例えば `my car` と言うだけでなく `my own car` と言うと、「(借り物などではなく) 紛れもなく自分自身の車だ」という気持ちを込める

ことができます。① **only** は「唯一の」、② **real** は「本当の、本物の」、③ **single** は「ただ一つの」という意味の形容詞で、それぞれ文脈に応じて使い分けが必要です。

◆**補足**：`own` は「～を所有する」という動詞としても使われます。例: `He owns a large company.` (彼は大会社を所有している)。また、`on my own` や `by myself` は「独力で、一人で」という意味の重要な熟語です。例: `I finished the work on my own.` (私は一人でその仕事を終えた)。

16.

解答 ④

【解説】

「A as well as B」は、「B だけでなく A も」という意味を表す重要な表現です。`not only B but also A` とほぼ同じ意味で、B に加えて A の存在を強調します。この表現が主語になるとき、動詞は A の人称や数に合わせるのが原則です。例えば、`She as well as you is responsible for the task.` (あなただけでなく彼女もその仕事に責任がある) となります。①は **as ... as** を使った同等比較の文、②は **rather than** など、③は **either A or B** で表される意味です。

◆**補足**：B だけでなく A も、と訳すように、意味の中心（強調したいこと）は B ではなく A に置かれます。これは `not only B but also A` で A に重点が置かれるのと同じです。会話では、文末に `..., as well.` (～もまた) という形で使われることも非常に多いです。例: `I'd like a coffee, and a piece of cake as well.` (コーヒーをください。それとケーキもお願いします)。

17.

解答 ①

【解説】

「double」は、形容詞として「2 倍の」「二重の」という意味を持ちます。数や量が 2 倍であることを示すときに使います。したがって、正解は①「2 倍の」です。②「単一の」は **single** で、**double** の反対の概念の一つです。③「難しい」は **difficult**、④「危険な」は **dangerous** という単語が対応します。

◆**補足**：`double` は動詞として「～を 2 倍にする」、名詞として「2 倍の量」という意味でも使われます。`double`, `triple` (3 倍の), `quadruple` (4 倍の) のように倍数を表す言葉も覚えておくとう便利です。例文: `The price is double what it was five years ago.` (その価格は 5 年前の 2 倍です)。

18.

解答 ①

【解説】

正解は①の **pay attention to** ～ です。「～に注意を払う、～に注目する」という意味の重要な熟語です。ここで使われる `pay` は「支払う」という意味から派生して、注意などのリソースを「向ける、

払う」というニュアンスで使われています。②の **take part in** ～ は「～に参加する」、③の **look forward to** ～ は「～を楽しみに待つ」、④の **get used to** ～ は「～に慣れる」という意味です。いずれも `to` で終わる表現ですが、意味は全く異なります。

◆補足：`attention` は次の問題にも出てきますが、「注意、注目」という意味の名詞です。`pay` の代わりに `draw`（引く）を使えば `draw attention to` ～ 「～への注意を引く」となり、`call` を使えば `call attention to` ～ 「～への注意を喚起する」となります。例文：`You should pay attention to the traffic signs.`（交通標識に注意を払うべきです）。

19.

解答 ④

【解説】

「global warming」は、「地球温暖化」を意味する英語表現です。`global` は「地球規模の」、`warming` は「暖かくなること（温暖化）」を意味します。言葉の通り、地球全体の平均気温が上昇する現象を指します。したがって、正解は④です。①「世界経済」は **global economy**、②「国際貿易」は **international trade**、③「自然保護」は **nature conservation** などで表されます。

◆補足：`global warming` の主な原因は、二酸化炭素などの温室効果ガス（**greenhouse gases**）の増加にあるとされています。`fight against global warming`（地球温暖化と闘う）のような形で使われます。例文：`We need to take action to stop global warming.`（私たちは地球温暖化を止めるため行動を起こす必要があります）。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の `shape` で、名詞として物の「形、形状」や人の「体型」、動詞として「～を形作る」という二つの意味があります。名詞の例：`The island is in the shape of a heart.`（その島はハートの形をしている）。動詞の例：`The artist shaped the clay into a vase.`（その芸術家は粘土をこねて花瓶を形作った）。他の選択肢は、② `shade` が「日陰」、③ `share` が「～を共有する」、④ `sharp` が形容詞で「鋭い」という意味です。

◆補足：`in good shape` で「体調が良い、状態が良い」、`out of shape` で「体調が悪い、運動不足で」という熟語になります。

21.

解答 ④

【解説】

「rare」は、「珍しい」「めったにない」という意味の形容詞です。数が少なかったり、滅多に起こらなかったりする事柄に対して使います。したがって、正解は④「珍しい」です。①「現実の」は real、②「生の」は raw、③「速い」は rapid や fast で表します。特に raw は、日本語でも肉の焼き加減で「レア」と言うため混同しやすいですが、これは「生に近い」という意味の raw から来ており、「珍しい」の rare とは別の単語です。発音も似ているので注意しましょう。

◆補足：`rare` の反対語は `common`（ありふれた、普通の）です。`It is rare for him to be late.` のように、`It is rare for ... to do` の形で「…が～するのは珍しい」と表現できます。

22.

解答 ④

【解説】

正解は④「警告」です。`warning` は、「注意、警報」を意味する名詞です。危険や好ましくない事態が起こる可能性を知らせるサインや言葉を指します。`He ignored the warnings and swam in the dangerous sea.`（彼は警告を無視して、危険な海で泳いだ）。①「温暖化」は `warming`、②「戦争」は `war`、③「心配」は `worry` がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`warning` は動詞 `warn`（～に警告する）の名詞形です。コロケーションとしては、`a warning sign`（警告標識）、`give a warning`（警告する）、`a final warning`（最終警告）などがあります。

23.

解答 ②

【解説】

「stop A from doing」は、「A が～するのを妨げる、やめさせる」という意味の重要な英語表現です。何かを妨害したり、中止させたりする状況で使われます。`stop` の代わりに `prevent` や `keep` を使っても、ほぼ同じ意味を表すことができます（`prevent A from doing`、`keep A from doing`）。したがって、正解は②です。①は ask A to do、③は allow A to do、④は help A (to) do などで表現される意味内容であり、文型も意味も異なります。

◆補足：`doing` の部分には動詞の ing 形が入ります。例文: `The heavy rain stopped us from going out.`（大雨のせいで私たちは外出できなかった）。この `from` は省略されることもありますが、特に書き言葉では `from` を入れるのが一般的です。

24.

解答 ③

【解説】

正解は③「～の世話をする」です。`look after ～`は、「～の面倒を見る、～の世話をする」という意味の句動詞です。子供や病人、ペット、あるいは留守中の家などを、責任をもって世話することを表します。`I asked my neighbor to look after my cat while I was away.`（私は留守中、隣人に猫の世話を頼んだ）。①「～を探す」は`look for ～`、②「～を楽しみに待つ」は`look forward to ～`、④「～を尊敬する」は`look up to ～`です。これらはすべて`look`を使った重要な句動詞なので、前置詞や副詞との組み合わせで意味が変わることをしっかり覚えましょう。

◆補足：`look after ～`は`take care of ～`とほぼ同じ意味で、置き換えが可能です。`look after`の方がやや口語的な響きがあります。

25.

解答 ③

【解説】

接続詞「while」には主に2つの意味がありますが、最も基本的なのは「～する間に」という、2つの出来事が同時に起こっていることを示す意味です。したがって、正解は③「～する間に」です。もう一つの重要な意味として、「一方で～」という対比を表す用法もあります。①「～なので」は **because**、②「もし～ならば」は **if**、④「～だけれども」は **though** や **although** を使って表します。文脈によって意味が変わる単語は、それぞれの用法を例文で覚えるのが効果的です。

◆補足：例文（～する間に）：`I was watching TV while my mother was cooking.`（母が料理している間、私はテレビを見ていた）。例文（一方で）：`Some people like cats, while others like dogs.`（猫が好きな人もいれば、一方で犬が好きな人もいる）。名詞としては`for a while`（しばらくの間）という形でよく使われます。

26.

解答 ③

【解説】

「wrongly」は、形容詞`wrong`（間違った）から作られた副詞で、「間違って」「不当に」という意味を表します。動詞を修飾し、その動作が間違いであることを示します。したがって、正解は③「間違って」です。①「強く」は **strongly**、②「ゆっくりと」は **slowly**、④「突然に」は **suddenly** という副詞が対応します。これらは動作の様子を表す基本的な副詞なので、しっかり覚えておきましょう。

◆補足：`wrongly` は、特に判断や告発などが間違っている、という少し硬い文脈で使われることがあります。例：`He was wrongly accused of the crime.`（彼は無実の罪で告発された）。日常的な「間違える」は`make a mistake` や、動詞の前に`wrong`を置く形（例：`I got the answer wrong.`）がよく使われます。

27.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を盗む」です。動詞の`steal`は、「～を（こっそりと）盗む」ことを意味します。

`Someone stole my bike from the station.`（誰かが駅で私の自転車を盗んだ）。②「鉄鋼」は`steel`で、`steal`と同音異義語です。③「静かな」や④「依然として」は`still`で、これも発音が似ているので注意が必要です。

◆補足：`steal`の活用は`steal - stole - stolen`と不規則に変化します。類義語の`rob`は`rob 人 of 物`の形で「(人) から (物) を奪う」という意味で、`steal`が物を目的語にとるのに対し、`rob`は人を目的語にとるという違いがあります。

28.

解答 ①

【解説】

正解は①の spider で、「クモ」を意味する名詞です。②の spy は「スパイ」、③の spice は「香辛料」、④の speed は「速さ、スピード」という意味です。いずれも `sp` から始まる単語ですが、意味は全く異なりますので、正確に覚えましょう。

◆補足：クモの巣は `spider's web` または `cobweb` と言います。`spider` はインターネットスラングとして、ウェブサイトの情報を自動的に収集するプログラム（ウェブクローラ）を指すこともあります。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②の`throw`で、「～を投げる」という意味の動詞です。ボールなどを腕を使って遠くへ放つことを表します。`Throw the ball back to me.`（私にボールを投げ返して）。他の選択肢は、①`through`が前置詞で「～を通して」、③`though`が接続詞で「～だけれども」、④`thought`が名詞で「考え」という意味です。これらはスペルと発音が似ているので注意が必要です。

◆補足：`throw`の活用は`throw - threw - thrown`と不規則に変化します。`throw away`で「～を捨てる」という重要な句動詞になります。`Don't just throw away your old clothes.`（古い服をただ捨ててはいけない）。

30.

解答 ③

【解説】

正解は③の **symbol** で、「象徴」や「しるし」「記号」という意味の名詞です。例えば、ハトが平和の象徴であるように、あるものが別の抽象的な概念を表している関係を示します。①の **sample** は「見本、サンプル」、②の **system** は「体系、制度、システム」、④の **signal** は「信号、合図」という意味です。いずれも **s** から始まる基本的な単語ですので、混同しないようにしましょう。

◆補足：`symbol` の動詞形は `symbolize`（～を象徴する）、形容詞形は `symbolic`（象徴的な）です。`a symbol of ...` の形で「…の象徴」と表現されることが非常に多いです。例文: `The dove is a symbol of peace.`（ハトは平和の象徴です）。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②「地震」です。`earthquake` は、`earth`（地球、地面）と `quake`（揺れ）が組み合わさった単語で、文字通り地面が揺れる自然現象を指します。`The building was designed to withstand strong earthquakes.`（その建物は強い地震に耐えられるように設計されている）。①「地球」は `the Earth`、③「地面」は `ground`、④「土」は `soil` がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`an earthquake-prone country` で「地震の起こりやすい国」。`an earthquake of magnitude 7` で「マグニチュード7の地震」。`a powerful earthquake`（強力な地震）。

32.

解答 ④

【解説】

「according to ～」は、「～によれば」という意味で、情報源を引用するときに使う非常に重要な表現です。新聞、本、人の話など、様々な情報源を示すことができます。したがって、正解は④です。①

「～に加えて」は **in addition to** ～、②「～の代わりに」は **instead of** ～、③「～にもかかわらず」は **in spite of** ～ などで表します。これらは全て基本的な前置詞句なので、セットで正確に覚えましょう。

◆補足：注意点として、「according to me」という言い方は通常しません。「私の意見では」と言いたいときは、「in my opinion」を使うのが自然です。例文: `According to the weather forecast, it will rain tomorrow.`（天気予報によれば、明日は雨が降るでしょう）。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③「必ず～する」です。`never fail to do` は、「～しそこなうことはない、必ず～する」という意味の強い肯定を表す表現です。`never`（決して～ない）と `fail`（失敗する）という二つの否定的な

要素が組み合わさることで、「失敗することがない」→「必ずする」という二重否定になります。`He never fails to call his mother on her birthday.`（彼は必ず母親の誕生日に電話をする）。①「～しそこなう」は`fail to do`、②「決して～しない」は`never do`、④「～する必要はない」は`never need to do`などです。

◆補足：この表現は、`always`を使った文とほぼ同じ意味を表すことができます。`She never fails to impress me.` は `She always impresses me.`（彼女はいつも私を感心させる）と言い換えられます。

34.

解答 ③

【解説】

「together with ～」は、「～と一緒に」「～に加えて」という意味を表す表現です。単純に `with` を使うよりも、一体感や強調のニュアンスが含まれることがあります。したがって、正解は③です。①「～の代わりに」は *instead of* ～、②「～の前に」は *in front of* ～、④「～にもかかわらず」は *in spite of* ～ で表します。

◆補足：`A together with B` が主語になる場合、動詞は A に合わせるのが一般的です。これは `A as well as B` と同じルールです。例文: `The box, together with its contents, was very heavy.`（その箱は中身と一緒にあって、とても重かった）。

35.

解答 ③

【解説】

正解は③の *melt* です。氷や雪、金属などが熱によって固体から液体に変化する「溶ける」という状態変化を表す動詞です。また、「～を溶かす」という他動詞としても使われます。①の *meet* は「会う」、②の *mean* は「～を意味する」、④の *mix* は「～を混ぜる」という意味です。

◆補足：`melt` は比喩的に「(人の心が) 和らぐ、感動でとろける」といった意味でも使われます。例: `My heart melted when I saw the cute puppy.`（そのかわいい子犬を見て私の心はとろけた）。地球温暖化の文脈で `melting ice`（溶けゆく氷）のように使われることも多いです。例文: `The snow will melt in the spring.`（春には雪が溶けるだろう）。

36.

解答 ②

【解説】

正解は②の *important* で、「重要な、大切な」という意味の最も基本的な形容詞です。物事の価値や影響が大きいことを示します。①の *impossible* は「不可能な」、③の *interesting* は「おもしろい、興

味深い」、④の **international** は「国際的な」という意味です。これらは全て基礎的な形容詞なので、意味をしっかり区別して使えるようにしておくことが大切です。

◆補足：`important` の名詞形は `importance` (重要性) です。`It is important to do ...` や `It is important that ...` の形で「～することは重要だ」と表現することが非常によくあります。類義語には `necessary` (必要な)、`essential` (不可欠な)、`vital` (極めて重要な) などがあり、重要度の高さによって使い分けられます。

37.

解答 ④

【解説】

正解は④の **survive** です。「生き残る」という意味の動詞で、事故や災害、困難な状況などを乗り越えて生命を維持することを表します。①の **arrive** は「到着する」、②の **support** は「～を支える、支援する」、③の **succeed** は「成功する」や「(～を) 継承する」という意味です。特に **survive** と **succeed** は、困難を乗り越えるという点で混同しやすいかもしれませんが、**survive** は「生き延びること」、**succeed** は「目標を達成すること」に焦点があるという違いを理解しておきましょう。

◆補足：`survive` は自動詞（目的語なし）としても他動詞（目的語あり）としても使われます。自動詞の例: `He survived.` (彼は生き残った)。他動詞の例: `He survived the war.` (彼はその戦争を生き延びた)。派生語には `survival` (名詞: 生存) や `survivor` (名詞: 生存者) があります。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①の `exist` で、「存在する、実在する、生存する」という意味の動詞です。物事や生物が、現実存在していることを表します。`Many people believe that ghosts do not exist.` (多くの人々は幽霊は実在しないと信じている)。他の選択肢は、② `exit` が「出口」や「退場する」、③ `expect` が「～を期待する」、④ `excite` が「～を興奮させる」という意味で、つづりが似ていますが意味は異なります。

◆補足：名詞形は `existence` (存在) です。`the existence of life on other planets` (他の惑星での生命の存在)。

39.

解答 ③

【解説】

動詞「sink」は、液体の中に「沈む」ことを表すのが主な意味です。船が沈んだり、太陽が地平線に沈んだりする様子に使われます。したがって、正解は③「沈む」です。①「考える」は **think**、②「歌

う」は **sing**、④「感謝する」は **thank** で、いずれも `sink` と音が似ているので聞き取りや発音で混同しないよう注意が必要です。

◆補足：`sink` の活用は `sink - sank - sunk` と不規則に変化します。反対語は `float`（浮かぶ）です。名詞としては台所の「流し、シンク」という意味でよく知られていますね。例文: `A ship sank in the storm.`（嵐で船が沈んだ）。

40.

解答 ②

【解説】

正解は②の `lazy` で、「怠惰な、怠け者の、面倒くさがりの」という意味の形容詞です。働くことや努力することを嫌う性質を表します。`I felt too lazy to go out.`（私は面倒で出かける気になれなかった）。他の選択肢は、① `crazy` が「夢中な、正気でない」、③ `hazy` が「かすんだ、もやのかかった」、④ `lady` が「婦人、女性」という意味です。

◆補足：`a lazy afternoon`（のんびりした午後）のように、人以外にも使われることがあります。名詞形は `laziness`（怠惰）です。

41.

解答 ③

【解説】

正解は③「ふるまう」です。動詞の `behave` は、特定の状況下で人がとる行動の様子を表します。特に、社会的に適切とされる「行儀よくする」という意味で使われることが多いです。`The children were told to behave themselves at the party.`（子供たちはパーティーで行儀よくするよう言われた）。

①「～を信じる」は `believe`、②「～に属する」は `belong`、④「呼吸する」は `breathe` です。

◆補足：名詞形は `behavior`（ふるまい、行動）です。`His behavior in class has improved.`（彼の授業中の態度は改善された）。`well-behaved` で「行儀の良い」という形容詞になります。

42.

解答 ④

【解説】

正解は④の `chase` で、「～を追いかける、追跡する」という意味の動詞です。`The police car was chasing a stolen vehicle.`（パトカーは盗難車を追いかけていた）。他の選択肢は、① `choose` が「～を選ぶ」、② `cheese` が「チーズ」、③ `case` が「場合、事件」という意味です。

◆補足：`chase a dream` で「夢を追いかける」という比喩的な使い方もします。名詞としても「追跡」という意味があり、`a car chase`（カーチェイス）という言葉は日本語にもなっていますね。

43.

解答 ③

【解説】

正解は③の **climate change** で、「気候変動」を意味する表現です。`climate` が「気候」、`change` が「変化」なので、そのままの意味ですね。長期的な気候パターンの変化全般を指します。①の **weather forecast** は「天気予報」、②の **air pollution** は「大気汚染」です。④の **global warming** は「地球温暖化」を意味し、気候変動の主な原因・側面の一つですが、気候変動そのものを指すわけではないので区別が必要です。

◆補足：`climate` は長期間にわたる平均的な気象状態（気候）を指し、`weather` は日々の天気を指すという違いがあります。この機会に覚えておきましょう。例文: `Climate change is a serious problem for our planet.`（気候変動は私たちの惑星にとって深刻な問題です）。

44.

解答 ③

【解説】

正解は③の **native** で、「出生地の、母国の、その土地固有の」といった意味を持つ形容詞です。`native speaker`（母語話者）や `native country`（母国）のように使われます。①の **national** は「国家の、国民の」、②の **natural** は「自然の、生まれつきの」、④の **neutral** は「中立の」という意味です。いずれも形が似ていて混同しやすいため、意味の違いを正確に理解しておくことが大切です。

◆補足：名詞として「その土地で生まれた人」を指すこともあります。`native to ...` の形で「（動植物が）…に固有の、原産の」という意味でもよく使われます。例文: `Pandas are native to China.`（パンダは中国が原産です）。

45.

解答 ③

【解説】

「trash」は、不要になったもの、つまり「ゴミ」や「くず」を意味する名詞です。主にアメリカ英語で使われる言葉です。したがって、正解は③「ゴミ」です。①「現金」は **cash**、②「衝突」は **crash**、④「皿」は **dish** という単語が対応します。

◆補足：イギリス英語では「ゴミ」を `rubbish` と言うのが一般的です。その他にも `garbage`（主に台所から出る生ゴミ）や `waste`（廃棄物）など、「ゴミ」を表す単語はいくつかあります。パソコンの「ゴミ箱」は `Trash` または `Recycle Bin` と呼ばれますね。

46.

解答 ③**【解説】**

正解は③の`frog`で、両生類の「カエル」を意味します。`The frog jumped into the pond.`（そのカエルは池に飛び込んだ）。他の選択肢は、①`fog`が「霧」、②`flag`が「旗」、④`log`が「丸太」という意味です。

◆補足：`a frog in one's throat`という表現は、「(声が出にくい) のどのいがらっぽさ」を意味する面白いイディオムです。

47.

解答 ②**【解説】**

「in reality」は、「現実には、実際は」という意味の副詞句です。見た目や想像とは違う、実際の状況を述べる時に使われます。`reality`（現実）という単語を知っていれば推測しやすいですね。したがって、正解は②「現実には」です。①「要するに」は *in short*、③「一般的に」は *in general*、④「詳細に」は *in detail* という表現が対応します。

◆補足：`actually` や `in fact` も「実際は」という意味で `in reality` と似ていますが、`in reality` は特に「見かけや理想とは裏腹の厳しい現実」といったニュアンスで使われることがあります。例文：`He seems to be confident, but in reality, he is very shy.`（彼は自信があるように見えるが、実際はとても内気だ）。

48.

解答 ②**【解説】**

正解は②「忍耐、我慢」です。`patience` は名詞で、困難な状況や、待たなければならない状況で、不平を言わずに冷静さを保つ能力を指します。`Patience is a virtue.`（忍耐は美德である）は英語のことわざです。①「患者」は `patient`、③「親」は `parent`、④「支払い」は `payment` です。これらは発音が似ているので、混同しないようにしましょう。

◆補足：形容詞形は `patient`（忍耐強い）です。名詞の `patient`（患者）と全く同じスペルなので、文脈で判断する必要があります。`lose one's patience` で「堪忍袋の緒が切れる、我慢できなくなる」、`run out of patience` で「我慢の限界に達する」となります。

49.

解答 ④**【解説】**

正解は④の`lose`で、「～を失う、なくす」または「(試合など)に負ける」という意味の動詞です。`I seem to have lost my keys.`(私は鍵をなくしてしまったようだ)。`It is important to learn from losing a game.`(試合に負けることから学ぶことは重要だ)。他の選択肢は、①`loose`が形容詞で「ゆるい」、②`close`が動詞で「～を閉じる」や形容詞で「近い」、③`rose`が名詞で「バラ」または動詞`rise`の過去形です。

◆補足：`lose`の活用は`lose - lost - lost`と不規則に変化します。`lose`と`loose`は発音の違い(/lu:z/ vs /lu:s/)も重要です。`lose one's way` (道に迷う)、`lose weight` (体重を減らす)といった熟語も覚えておきましょう。

50.

解答 ②

【解説】

正解は②の`wait`で、「待つ」という意味の動詞です。`We had to wait a long time for the bus.`(私たちはバスを長時間待たなければならなかった)。他の選択肢は、①`weight`が名詞で「重さ」、③`wet`が形容詞で「ぬれた」、④`waste`が動詞で「～を浪費する」という意味です。`wait`と`weight`は発音が同じ同音異義語なので、文脈で判断する必要があります。

◆補足：`wait for ~`で「～を待つ」という形で使われるのが基本です。`Who are you waiting for?` (誰を待っているのですか?)。`I can't wait to see you.`は直訳すると「あなたに会うのが待てない」となり、会うのが「待ちきれないほど楽しみだ」という気持ちを表す口語表現です。
